開催日時	平成 29 年 1 月 31 日 (火)
場 所	開成町役場議会全員協議会室
出席者	町長、副町長、教育長、行政推進部長、町民サービス部長 保健福祉部長、まちづくり部長、教育委員会事務局参事 参事兼税務窓口課長、街づくり推進課長、街づくり推進課主幹
件 名	開成町耐震改修促進計画について ほか
担当部課名	まちづくり部街づくり推進課

提案理由

建築物の耐震改修の促進に関する法律の改正や県の耐震改修促進計画が改定されたことを受け、町の計画の改定が必要になったため。

協議事項

- 1 開成町耐震改修促進計画の改定について

会議資料

- 1 開成町耐震改修促進計画の概要

主な意見

- 6 年間で 167 戸しか減っていないわけで、今後 32 年度までに 500 戸という目標を達成するためには、現状分析を踏まえた中で具体的な耐震化を促進するための取り組みを改めなければ数の達成はできないのでは。
- 今年度、耐震改修補助等の要綱を改正するなどして増築分も対象としている。また、個別に対象者に細かく情報提供をしていく姿勢が欠けていたという反省から、今回の計画に盛り込み、増を目指す。
- データとしては、どのエリアが多いのかということは把握しているのか。
- 現在、図上に落とし込んでいる。
- ゾーニングをしていかないと、目に見えてこない。漠然とやっても意味が無い。税の特例措置、優遇措置などが町民に浸透していない。
- 県の計画の中で、緊急輸送道路の沿道を優先的に実施していくとある。町は現在図上に落としているので、それを受け、重点化すべき地区等を検討していく。
- 500 戸の中で空き家の扱いはどうなっているのか。
- 簡易的な外観調査の中で確認している。明らかな空き家は除外する方向。
- 天井脱落対策は福祉会館と認識しているが、それ以外の公共施設はあるのか。
- 公共施設の場合、大規模な空間がある施設。町の場合、学校体育館と福祉会館。体育館は対策工事がされている。
- 平成 37 年度の人口ビジョンでの人口の増加率と戸数の伸びに違和感を覚える。
- 平成 32 年度前後で人口のピークを迎える。世帯数は単純に増加率をかけているが

議論の余地があるということは承知している。

○ピーク人口が設定されているわけで、その後も戸数が増えるという推計の根拠は
どういったものか。

→過去の趨勢で算出している。それを踏まえた中で修正は可能。

国の指針や県の計画との整合を図っていかなければいけない法定計画ということで
独自の数字は出しにくいというのが実情。平成 37 年度については修正の余地はある。

○県の新しい計画では 37 年に 100%なのか。

→32 年に 95%。その先は出ていない。県計画が策定された後に国の改訂方針が出た。
その時に初めて平成 37 年にほぼ解消という指針が出た。

○国は、目標値ではなく、平成 37 年に解消したいとしているのに、95%で良いのか。
→町の計画は国の方針と県の計画を踏まえ、さらに町の状況を勘案して定めよとある
ので不整合ではない。

開成町の現在の耐震化率 80%というのは町村の中で相当良い。なかには 50%台
というところもある。それでも平成 32 年度の目標を 95%としている。

結論：取り組みの部分や、目標戸数を人口ビジョンにおける人口の伸びを踏まえた
形で一部修正するが基本（耐震化率の目標等）は、原案通りとする。

扶養手当等の見直しについて

提案理由

人事院勧告等を受け、職員の扶養手当について改正が必要になったため。

協議事項

2 扶養手当等の見直しについて

会議資料

2 扶養手当の見直しについて

主な意見

特になし

結論：原案通り条例改正を提案していく。